

年不詳九月十四日附宇丹(宇津呂丹波)内堀才介宛所待従法橋頼純の感状、及び年不詳五月廿五日附堀才介宛所刑部卿法眼頼介(頼康歟)の感状あるものも亦同人であらう。慶長十八年の土帳及び元和元・二年の土帳に、千二百石堀才之助と見える。大坂夏陣に才之助七十三歳で、軍事の顧問として山崎闇齋に添へられたが、折節才之助は痼病を患つたので乗物で従軍し、戦場では家來に助けられて乗馬に上下した。才之助の子才之助の時不如意の爲在郷を命ぜられ、その子五兵衛を経て六郎兵衛も尚鶴來に居たが、寶永年中六郎兵衛は奥力に召抱へられて再び金澤に移つた。

**ホリサダカタ 堀貞固** 通稱丈之助。大小將組に列し、割堀奉行であつた。明治元年越後の役に、丈之助一隊を率ゐ、富山侯の助勢たる名義で出征したが、閏四月廿九日夜中田村に向かふ際、官軍御用係吉田省之進を敵の間隙であると誤信し、部下の司令役深山久五郎に命じ、拳銃を以て之を傷つけしめた。丈之助翌朝に至り自己の輕卒を悔い、田尻村の山林に入つて自殺した。時に年廿九。

**ホリサダナリ 堀定成** 越後春日山城主堀秀治の孫興左衛門は、寛永十年前田利常に召されて四千石を賜はり、人持組に列し、正保二年興力知五百石を加へられ、計四千五百石となつた。其の子興左衛門定成祿を襲いたが、寛文元年前田綱紀が秀治の家老堀丹後の家來深美縫殿を六千石に召抱へたから、堀は深美の下列にあるを恥ぢ、三年正月十九日暇を乞うて去つた。

**ホリサプロザエモン 堀三郎左衛門** 大聖寺藩士。目下部流の劍客であつたが、江戸に

於いて秋田浪人關新五左衛門に學び、心陰流を藩に傳へた。藩主前田利章の頃の人。

**ホリサプロベエ 堀三郎兵衛** 半右衛門の弟。慶長六年前田利常に召出された。祿三百石。大坂再役に三・丸町口で敵首一を得、寛永十六年前田利常に小松に從うて三谷に館し、正保元年歿。子孫世々藩に仕へる。

**ホリサプロベエ 堀三郎兵衛** 初名采女。父三郎兵衛の三男で、五百石を領したが、明曆元年歿し、子なくして斷絶した。

**ホリシヨウアン 堀昌安** 諱は維新、通稱昌安、自然子と號した。その先世大意坊は越後の人、長崎に遊び、醫を明人趙師秀に學び、眼科を能くし、子孫金澤に移り、又この術を業とした。昌安は養佐坊の長子であつたが、弟養伯をして宗家を襲がしめ、別に一家を分かつた。歳三十の時藩臣前田修理知周に仕へたが、その意にあらざるを以て辭し、石川郡犀川左岸中村領内に住居して貸屋を設け、之を細民に提供したので、附近遂に一市街を爲し、時人之を昌安町というた。晩年昌安越前三國に移住し、その地で歿した。昌安明和三年正月元日生まれ、文政十二年八月廿二日歿、享年六十四。昌安に一女ありて、能登馬場村伊藤氏の子を婿とし家を嗣がしめ、又昌安というた。この昌安は嘉永五年御醫師として召出され、十人扶持を給うたが、明治元年越後戦争に從うて眞傷し、跛となつた。

**ホリソウエモン 堀宗右衛門** 初め堀秀治に仕へ、慶長十九年前田利常に來仕し、正徳四年歿。その本宗は四代健八郎に至つて早世斷絶したが、支族は世々相繼いだ。

**ホリソウシユク 堀宗叔** 外科醫で、百五

十石を賜はり、元祿十六年歿した。時に歳六十三。嗣子以悦は元祿十六年七月新知百石を賜はり、寶永元年父の遺知を相續したが、正徳四年前田綱紀の養女誠姫の上洛に從ひ、途

江州越智川に自殺し、家斷絶した。以悦の子宗佐、享保十年十二月新たに召出されて二十人扶持を賜はり、二十年歿した。享年四十四。其の養子宗叔、諱は本行、初諱政宗、又遺跡相續を命ぜられ、後十人扶持を賜はり、文化元年七月六十七歳を以て歿。次代周庵勝能は天保六年五十一歳で歿し、その次宗元は後に宗叔というた。

**ホリタカヨシ 堀孝善** 通稱鐵三郎・學之丞。初め御算用者で、年寄中席執筆を勤めたが、文政五年新知六十石を得て小頭並となり、後三十石を加へ、天保四年再び三十石を増して組外に列し、十五年更に五十石を得て、合計百七十石を受けた。

**ホリナイゼン 堀内膳** 祿千五百石。もと越後春日山城主堀忠俊に仕へた。後前田利長の時來仕し、利常の大坂出征に従軍し、その後役には町口で首一つを獲た。子孫不詳。

**ホリナガトキ 堀長時** 通稱次郎八・傳左衛門。四郎三郎の養子。祿四百石を領して御馬廻組に班し、諸職を経て御留守居物頭に至り、享保十三年百石を加へ、元文二年二月十九日七十一歳を以て歿した。

**ホリナホタネ 堀直種** 通稱大次郎・平次右衛門。元文元年父藤馬の遺知二百石を受け、御馬廻組に屬し、前田治脩の御抱守から諸職に歴任したが、天明六年十二月廿八日遂電し、七年二月廿八日立歸つて一類御預となり、同年五月十二日揚屋に入り、八年四月廿一日五

ヶ山に流刑を命ぜられて配所に歿した。その子平八郎、亦父と共に逃走の後歸つて五ヶ山に流され、寛政四年六月十日免された。

**ホリナリアキラ 堀成章** 通稱興八郎・興左衛門・興一右衛門。十郎兵衛成勝の子。祿三百石。組外から御馬廻組に轉じ、會所奉行改作奉行に歴任したが、文化九年五月不行跡によつて百石を減じ、蟄居を命ぜられ、文政五年十月八日流刑に處せられた。後配所に於いて歿。

**ホリノウチ 堀内** ホチノ 石川郡中奥郷に屬する部落。

**ホリノウチカゲヒロ 堀内景廣** 通稱帶刀。一秀軒と號した。長連龍の家臣。天正十八年武州八王子の戦に功を立てたが、慶長五年八月能美郡淺井畷の戦に、丹羽長重の臣深町九郎兵衛・澤野次郎右衛門の爲に討取られた。

**ホリノウチミチ 堀内道** 金澤城鶴丸より玉泉院丸に通ふ時は、本丸二・丸の境にある空濠を通行したが、之を堀内道というた。

**ホリバクスイ 堀麥水** 金澤の俳人。堅町の藏宿池田屋長左衛門の次男。初名平三郎、後長左衛門。別號操叟・吐仙・五噫逸人・牛口山人。初め京攝の間にあつたが、元文五年その兄が歿したから、郷に歸つて甥の後見となり、茶器等を嗜いでゐた。麥水初め俳諧を百雀園五五に學んで可遊といひ、次いで希因に學び、又能く支考の著書を讀んだが、その所謂虚實の論に満足し得なかつたから、伊勢派の風調を慕ひ、寛延二年その地に赴いて乙由の教を會道に聞き、涼菟の傳を秋至坊に受け、遂に乙由の子麥浪から麥水の號を得て歸つた。次いで寶曆十一年その四樂庵を甥に譲り、小